



令和7年3月2

南陽市議会議長 遠藤 榮吉 殿

六合会

会派会長 須藤 清市

令和6年度 会派先進地等調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規第4条の規定により報告いたします。

項 目	調 査 ・ 研 修 内 容
調査期日	令和6年9月28日(土)から29日(日)まで1泊2日
調査場所	東京都港区議会
調査目的	① 「全国連携の港区」のプロジェクトの実現に向けて その取組の研修 ② 「札の辻スクウェア」の視察（産業振興センター、三田図書館、 観光インフォメーションセンター、他） ③ 「第3回全国連携マルシェ in 芝浦」の視察 ④ 地域づくり懇談
調査概要	別紙のとおり
その他	

調査概要報告書・・・人口減の中、新しい人の交流と南陽産品の物流を活性するため、首都東京都各地の実態に触れ、更に南陽出身者の郷里認識と期待を頂き、具体的な政策提案に貴重な経験と機会を得た。

東京都/港区 行政展開

A ①「全国連携の港区」のプロジェクト 330 を超える地域と連携

(港区まちづくりのスタンス：世界と日本があって港区が成り立つ、互いに役に立ち共存共栄を図る)

- 1、全国・世界の各地域との連携を実践する (姉妹都市・友好都市・各種協定・その他の連携、実践)
目的1：住民同士の交流 (訪問や受入しての自然や各種体験と交流)
目的2：災害時の相互支援 (防災備蓄飲料水届けたり、片付け復旧等作業実施など)

2、③「第3回全国連携マルシェ in 芝浦」定期的物産市を開催・・・330 地区から出展

行政と区民と出展者の協働交流、住居地内の公園で住民が運営参加、近隣商店とも連携

B まちづくりの基本は、区内エリア毎の地域魅力を高める取り組みの実施にある (市民意見を反映させる)

- 1、市役所行政改革を実施：地域の問題は地域で解決し区民がより身近な行政サービスを受ける
- 2、区全体より地域毎に区民が協働する：問題解決や魅力アップの取り組み実施
- 3、日常生活は人、エネルギー、食料、水、空気など世界全国各地域の支えがあつてを成立認識する
- 4、新しい価値の発見と向上：民間企業等との連携と情報発信 質の高い市民サービスの提供目指す

C ②民間運営の多目的サービスの複合施設「札の辻スクウェア」設置

- ①多数市民が利用できる多目的サービスの複合施設として設置
- ②田町地区を港区全体の中心市街エリアとしての位置付け各機能充実
- ③運営には専門的な民間力活用委託も含める (指定管理など)
- ④メイン図書館機能、学習イベント等多くの集会プログラム実施
- ⑤行政窓口機能窓口 (産業振興課) を施設内に設置する

施設概要 1F 観光インフォメーションセンター(対インバウンド)、2F 外国系スーパー：連携地域の食材賞品や世界的商品を安価に 3F~6F 図書館、7F~産業振興センター(起業支援)、市役所産業振興課 (区の行政サービスの窓口として)

サービス運営 (あ)施設内全て事業所は協働連携してサービス共有化

(市民各層や国内観光客やインバウンド客の誘客と受入接待基地)

(い) 行政サービス窓口を設置 (各種行政手続きの窓口業務)

(う) 連携する 330 地方から全国物産の販売、展示会開催、体験や各種交流の機会提供

(え) 図書館のイベントや学習教室主催により区内の 8 図書館同士で区民間交流活性化

D ④ 地域づくり懇談会

ANA 全日空の本社 CX 推進室グローバルマーケティング、マネージャー

中小企業診断士、経営コンサルタント である清水佑亮市との視察しながら懇談会開催

首都東京の各地を歩いて東京人と交流、南陽産品の商品化とブランド感性の創造

東京人の「つるのこ」コンサル指導した清水氏よりの案内で、豊かな地方都市南陽の再認識

第1エリア 台東区/上野公園 多機能な公園

ねらい：南陽市内の数カ所の公園を総合的に捉え多目的に機能させる

都心の公園「上野公園」は各種機能発揮している集積地、(→南陽市全体を公園化し集積を図る?)

(研究、発表、保存、花、スポーツ、音楽、美術、大会イベント、人が集積する機会の連続の地)

第2エリア 銀座8丁目から日本橋室町、東京駅周辺 国の中心地オフィス機能と多目的都市機能

ねらい：南陽市内の商店街、温泉と観光とワイン施設エリアのこれからの魅力づけとサービス充実

山形県アンテナショップ視察と交流、銀座や日本橋の一流商品と伝統品紹介と販売

大通り周辺機能整備と活性化、地方としての首都東京、全国からの地産食材の集積現状

第3エリア 六本木 夜時間の飲食街の賑わいづくりと逸品食事提供と交流演出、ショッピングの演出

第4エリア 麻布・北青山・表参道周辺 昼から午後のヤング層中心の食事と買い物街歩き魅力づけ

全国各地特産の豚肉を活用してのとんかつ店(飲食店経営者)の視察、南陽ブランド品の宣伝

南陽産品の米・野菜・食肉・果物等販売、オリジナル化六次化ブランの化による需要拡大づくり

E ふるさと南陽の集い「東京南陽会」に参加

首都圏在住の南陽出身者へふるさと情報を伝え、故郷のPRと活性化に南陽会との今後の連携を懇談
具体的協働作業を展開させる方向を探った 南陽会の近藤会長と広報担当の岡田氏と意見交換交流

総括

*東京都港区は定住人口が26万人、東京都23区内ではビジネス等都市機能の中軸のエリアとはいえ
住民の有意義な安全な日常生活の維持と充実の視点で区内各地魅力を捉え、全国の330地区を超える
市町村と地域連携を図り発展している。港区は置賜管内8市町と友好関係にあり丁寧な歓迎を受け
未来への多数の施策と課題等を視察でき研修した。港区を小地区毎に特徴とらえている姿が感じられた。
また銀座、日本橋、東京駅周辺、上野公園、六本木、青山、表参道を歩き、それぞれが個性的な地域づく
りが実践され大勢の人の交流であった。今後、地方都市の南陽市は特徴を再認識し、これからどう存在を
目し市内外に役に立っていくか、人口減の中で人と文化の交流、生産品物流の活性化と共に、地球的な温
暖化による災害の激甚化や、変容する犯罪に対する対策等で、首都圏と東北の田舎の南陽として互いに貢
献する仕組み、相互関係づくりを構築する必要を強く感じる。更に出身者の東京南陽会皆様にはふるさと
の充実に希望と大きな期待を頂いた。南陽市議会議員として行政と共にまちづくりに臨み、「住んで良し訪
れて良し」の具体的な魅力アップのため、この度の首都圏での貴重な研修を参考に政策を立て、東京南陽
会との毎年の交流舞台に参加継続し、この度得た政治活動の大きな方針に尽力していきます。



令和7年3月21日

南陽市議会議長 遠藤 榮吉 殿

六合会
会派会長 須藤 清市

令和6年度 会派先進地等調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規第4条の規定により報告いたします。

項 目	調 査 ・ 研 修 内 容
調査期日	令和6年11月10日(日)から12日(火)まで2泊3日
調査場所	① 福井県勝山市議会 ② 富山県富山市議会
調査目的	① ちよいチャレ応援事業 ② 富山市まちなか総合ケアセンター運営事業
調査概要	別紙のとおり
その他	

「出羽の国 羽前（山形）・羽後（秋田）」と同じ、日本海沿線である「越前（福井）・越中（金沢）・越後（富山～新潟）の北陸地方」は、首都からの新幹線直行から更に関西の京都大阪と繋がる西日本周遊する交流基地を想定し、能登に発生地震と豪雨の二重の激甚災害から乗り越え、産学連携と歴史文化保全と自然共生をベースに、日本のインバウンド交流のメッカとして、新しい日本の地方の最新の発展のモデルを目指し、エリア内それぞれの活性化が躍動的にコンパクトに展開されている。（令和6年の北陸に研修する）

福井県 勝山市・・・進む少子高齢化や人口減で縮小傾向の自治体を市内外からの人の交流へ大転換！
（3事業） 人口：昭和25年38,000人から令和7年20,735人、2040年16,339人想定

- <1> **ちょいチャレ応援事業** 市民がグループや組織単位でやりたいことにチャレンジできるまちづくり活動を支援し、地域の担い手を創出し、地域全体の活性化を図る
- <2> **にこにこ地域づくり事業** 自治体を構成する地区に着目し、各地区の独自性、民間活力、ノウハウを活かし、住民主体の地区内外との連携促進や学びや保全等、自立した「新しい地域コミュニティー」の活性化による新しい自全体運営を図る
- <3> **勝山独自の観光DMO事業** 行政が30%弱出資した民間法人を立ち上げ世界市場を相手に恐竜など地域資源を商品化し、多目的な交流人口増による経済効果で発展させる

勝山市 ちょいチャレ応援事業

事業の特徴 ①市の総合計画下で展開 ②「市民がやりたいこと挑戦は何でもできる」まちづくり
③個の存在優先：市民が仲間、グループ、組織単位 ④自主的・主体的に取り組む新事業おこし
⑤活動で地域の担い手の創出と参加継続 ⑥勝山市の地域全体の活性化に寄与するスタンス

事業の概要 ・ ・ 10年後のまちの姿「わいわい、わくわく、安全安心のまち かつやま」の実現目標

- ① 1年度単位の事業支援 ②対象者、対象事業、事業展開に該当すべき明確なルール
- ③ 補助金補助率及び補助対象経費の補助上限額等あり明確なルール
- ④ 初年度令和4年度実績 申請16件 1,542,088円（@約10万円）
- ⑤ 2年目5年度 対象組織の見直し 補助項目拡大（委託料も対象に） 8件 779,068円
- ⑥ 市制70周年で記念事業枠増やし、観光に寄与するもの 申請31件 3,532,300円

→ 7年度は、要項改正、課題解決、市の推進政策に関する新しい支援枠を設置、更に継続充実図る

勝山市 にここに地域づくり事業

事業の特徴 ① 6次総合計画 活力あふれる地域コミュニティを創る

少子高齢化・人口減少下でも住民主体で、「にここに地域づくり事業」展開する

② 社会教育（公民館）から市長部局のまちづくりへの転換としての各地ごとの支援をする、

③ 行政が町の地区に出る 計10地区 まちづくり会館：8地区、コミュニティーセンター2地区

④ 資金 252,500,000円 （人口均等割・人口割・コミセンには追加）

⑤ 長期10年間活用可能 自由に活用できる多額の「交付金」

⑥ 市職員が各地へ担当地域職員を3人ずつ設置

市民反応 ①令和4～5年 戸惑い、抵抗 なかなか事業計画が出てこない

対策 ②いよいよ6年に（2年目）、イベント実施、課題解決事業 市民のやり甲斐の発表機会

③10地区、オリジナルな多分野にわたる各種支援主催事業の展開

④今後の人口減等の社会変動に総量減っても耐えて継続するための対策

財源不足、きめ細かなサービスの持続

⑤展開の基盤づくり強化する必要あり

⑦ 新しい勝山市として、全てのものを観念づけ、自然体の力に増長させる

勝山市 勝山市観光まちづくり（株） 観光DMOの展開

福井県立大学の恐竜学部設立とメイン幹線通りの開通、様々な機運を重ねて、観光庁DMOに手を挙げ、新しい交流づくりが展開されていた

人口減の地域事情を交流人口で盛り上げ経済面、文化面、共に運営する株式会社の約25%程の公的支援を得て、誘客と住民の満足を重ねて出港した小さ船が大きさを得て地域そのものを商品として隆盛していく未来を感じた。

①勝山市の住民主導の具体的なまちづくりの取り組みと観光DMOの展開による新しい人の交流づくりの実践と、

②各種ケアの街中での利便性が強く集中したサービスを提供する富山市のコンパクトなまちづくり展開を研修し、南陽市の立ち位置（とらえるべきコンパクトの規模、魅力要素活かした新タイプの観光の流動人口増への仕掛け）を研修。

富山市 まちなか総合ケアセンター運営事業

- あ) 旧小学校跡地利用 中心地でのサービス機能集積
- い) 子育て、高齢者福祉を軸に、質の高い暮らしの展開を模索した官民連携事業
- う) 11億円、ケアセンター・体育館・スポーツセンター・コンビニ・立体駐車場・看護専門学校など
- え) ①子育て支援、②在宅医療の推進、③地域コミュニティの醸成、3本柱のまちづくりセンター
- お) ①は、特に産後ケア応援、24時間の子育て助産師ほっとライン、病児保育室、子ども発達支援室
- か) ②は、通院困難な方の訪問可のまちなか診療所、在宅医療推進への学生・研修医の受け入れ、医療介護連携室
- き) ③は地域コミュニティ醸成、マイスターの育成、健康カレッジ主催、官民連携事業展開
- く) 富山大学医学部との連携、看護師養成学校運営、未来を見通したコンパクトサイズの切れ目のない支援を実践

総括：人口41万人の県都富山のコンパクト計画にのり生活全般についての意識としての政策の展開に感心した。と同時に、南陽市はらしいサイズ見極め、コンパクト化を具体的方針に乗せ、官民で総合的にサービス展開するよう早期のプランニング見直しと対応が必要である。